

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日	校長名	所在地																			
新潟農業・バイオ専門学校		平成22年12月24日	江口 五郎	〒950-0932 新潟市中央区長潟2-1-4 (電話) 025-368-7123																			
設置者名		設立認可年月日	代表者名	所在地																			
学校法人 国際総合学園		昭和32年10月10日	池田 弘	〒951-8063 新潟市中央区古町通二番町541 (電話) 025-210-8565																			
分野	認定課程名	認定学科名		専門士	高度専門士																		
農業	農業専門課程	園芸デザイン科		平成23年文部科学省 告示第166号	-																		
学科の目的	花卉生産、フラワーショップ、造園業など園芸分野に携わる人材を育成する。 現場とのつながりを最大限重視し、専門教育とともに社会人として必要なコミュニケーション能力やマナーなどの人間力教育も実施。 人材の育成、輩出から新潟県、広くは日本の園芸業界の発展を促すことが設置目的である。																						
認定年月日	平成27年2月17日																						
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																
2年	昼間	1792時間	608時間	0時間	1184時間	0時間	0時間																
生徒総定員		生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																	
60名		29名	0名	3名	9人	12人																	
学期制度	■前期:4月8日～9月6日 ■後期:9月17日～2月5日			成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 出席数、期末試験結果、授業貢献・態度から総合的に判断																		
長期休み	■学年始:4月1日 ■夏季:7月25日～8月16日 ■冬季:12月21日～1月5日 ■学年末:2月22日～3月31日			卒業・進級条件	進級・卒業要件 ①出席率 学科科目85%以上、実習・実験科目90%以上 ②各科目の成績評価がC以上																		
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 ・産業カウンセラーによるカウンセリング制度を実施			課外活動	■課外活動の種類 ・地域活動(地域行事のボランティアに参加) ・実習先地域の祭りへの参加(模擬店運営など) ■サークル活動: 有																		
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等(平成30年度卒業生) 生花小売業、造園業、施設園芸施工業、土木(公園管理)など ■就職指導内容 マナー、キャリアデザインなどを講義指導。 その他、就職部による面接指導、キャリア相談を実施。 ■卒業者数 12 人 ■就職希望者数 10 人 ■就職者数 10 人 ■就職率 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 83.3 % ■その他 就職を希望しない学生2名…就労支援1名、進学1名 (平成 30 年度卒業生に関する 令和1年5月1日 時点の情報)			主な学修成果(資格・検定等)※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成30年度卒業生に関する令和元年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>フラワー装飾技能士2級</td> <td>①</td> <td>10人</td> <td>9人</td> </tr> <tr> <td>園芸装飾技能士2級</td> <td>①</td> <td>4人</td> <td>4人</td> </tr> <tr> <td>フラワーカラー検定</td> <td>③</td> <td>13人</td> <td>13人</td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述 技能五輪 フラワー装飾作業 新潟県代表 3年連続輩出 環境省「みどり香る街づくり企画コンテスト」入賞			資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	フラワー装飾技能士2級	①	10人	9人	園芸装飾技能士2級	①	4人	4人	フラワーカラー検定	③	13人	13人
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																				
フラワー装飾技能士2級	①	10人	9人																				
園芸装飾技能士2級	①	4人	4人																				
フラワーカラー検定	③	13人	13人																				
中途退学の現状	■中途退学者 1 名 平成30年4月1日時点において、在学者27名(平成29年4月1日入学者を含む) 平成31年3月31日時点において、在学者26名(平成31年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 進路変更 ■中退防止・中退者支援のための取組 担任による定期面談、産業カウンセラーによるカウンセリング制度、教職員間で情報共有を図る会議の実施			■中退率 3.7 %																			
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 学費分納制度、NSGカレッジリーグ無利子奨学制度 ■専門実践教育訓練給付: 給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載																						
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																						
当該学科のホームページURL	http://abio.jp/subject_gardening/																						

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

生花店、造園施工企業との連携を図り、学生が各現場で実際の作業、業務を通じて学ぶ姿勢を基本とする。現場での作業、業務を通じて、現場で求められる立ち振舞いコミュニケーション力を養い、現場で即活躍できる職業人を育成する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

業界動向、最新知識や技術等から業界が求める人材像を提案し、現状の教育課程内容がそれに叶うか確認する。

- ① 委員会での指摘・課題事項は、校内教職員会(月1回実施)にて指摘・課題事項の改善策と実施可否を検討。
- ② 実施可能な改善策は予算も含め実施計画を立案。その後、改善策を適切な時期に実施。
- ③ 改善策実施結果は、次回の教育課程編成委員会にて報告(実施中の場合は進捗状況を報告)。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成31年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
江口 五郎	新潟農業・バイオ専門学校 学校長		学校関係者
秋山 正之	新潟農業・バイオ専門学校 教務部長		学校関係者
北澤 道子	新潟農業・バイオ専門学校 園芸デザイン科 主任		学校関係者
伊藤 亮司	新潟大学農学部 助教	平成30年4月1日～ 令和2年3月31日(2年)	②
長谷川 均	グリーン産業株式会社 運営事業部長	平成30年4月1日～ 令和2年3月31日(2年)	③
石山 和史	株式会社 景 代表取締役	平成30年4月1日～ 令和2年3月31日(2年)	③

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ① 業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ② 学会や学術機関等の有識者
- ③ 実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

年間2回開催。教育課程編成委員は当該学科だけでなく、他学科の委員の方にもオブザーバーとして参加いただき、広い見地から学校運営への意見、助言をいただくようにしている。

(開催日時)

平成30年度第1回 平成30年3月16日 15:00～17:30
平成30年度第2回 平成30年10月4日 15:30～17:30
令和元年度第1回 令和元年5月10日 15:30～17:30
令和元年度第2回 令和元年9月13日 15:00～17:30

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

- ① 委員意見)校外活動にて消極的な学生が数名いた。自信を持たせるよう段階的にレベルアップさせてほしい。
- ① 当校対応)学生の実力を見極め、戦略的にグループを編成、各人が長所を活かした作業ができるようにする。
- ② 委員意見)「いたやま夢まつり」(地域イベント)は、園芸の学生が来て活気付いた。今後も実施願いたい。
- ② 当校対応)地域との調和を校訓として掲げているので、今後も積極的に参加したい。
- ③ 委員意見)生態系調査をやるには全4回は少ない。調査項目の絞り込みが必要。
- ③ 当校対応)生態系調査は年度途中から依頼があり実施した。植生調査を中心に進める。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

- ・学生に職業教育指導ができる企業や技能士を、教育課程編成委員会推薦等により選定する。
- ・当校の実習で得た知識、技術を、現場での作業、業務により応用力、実践力を身につけられる環境を整備する。
- ・職業人、社会人として必要な意識の醸成を図る。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

・実習内容

設計・施工実習…各チームで庭園や花壇のプロジェクトを進行。設計から施工までの一連を行う。

育成管理、生態調査…連携先企業、団体の現場に赴き、現場担当者の指導、監督の下、育成管理作業、調査を実施する。

・実習評価

設計・施工実習…チームに進行状況に合わせた助言、指導を行い、同時に評価も行う。

育成管理、生態調査…最終授業でのレポート発表にて担当者より評価をいただく。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
環境デザイン実習Ⅱ	環境デザイン実習Ⅰで得た技術を使い、個人庭園や学校花壇の設計をする。	グリーン産業株式会社
植物育成管理学実習	植物の成長過程においてかかりやすい病気がある。成長過程ごとに異なる病気の種類とその処置策とを実習を通じて学ぶ。	新潟県立植物園
生態系調査実習	生態系の調査を行ううえで、必要な知識、技術、留意点を実習を通じて身につける。生態系の理解のためには実際に外にでることが大切である。	公益財団法人新潟県都市緑花センター
樹木医学	樹木医を目指すための必要な知識、制度の理解をこの授業を通じて伝えていく。樹木医試験は多方面の知識が必要であるため、広範な好奇心が必要である。	株式会社SKプランニング NPO法人 お山の森の木の学校
ガーデニング実習	ガーデンデザイン論Ⅰで考えた庭園イメージを実現化させる。	グリーン産業株式会社

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記
 就業規則第57条に基づき、専門的知識の維持向上を目的に以下の研修実施を年度当初に計画する。
 なお、年度内にて研修の公募が発表されたものは、教務部長、学科長にて内容を判断し、参加を検討する。
 研修参加は、教務部長、学科長にて参加者を指名し原則業務として参加する。
 研修参加後は、1週間以内に研修レポートを提出。内容の共有化を教職員会にて行う。
 ・園芸関連の学会、講演会、研修会への参加(随時)
 ・授業テクニック、キャリア等、教育関連の研修会への参加(年1回 8月または2月)

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「造園技術フォーラム」(連携企業等:日本造園建設業協会)
 期間:2018年4月 対象:教務部園芸デザイン科主任1名
 内容:公園緑化の最新事例発表など

研修名「NFD日本フラワーデザイナー協会 講習会」(連携企業等:日本フラワーデザイナー協会)
 期間:2018年5月 対象:教務部園芸デザイン科教員1名
 内容:フラワーデザインのトレンド勉強会と情報交換

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名「コーチング、メンタリング研修」(連携企業等:一般財団法人 職業教育・キャリア教育財団)
 期間:2018年8月 対象:教務部1名
 内容:学生指導におけるコーチングスキルの講習

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「ガーデン、フラワー&プランツEXPO」(連携企業等:リードエグジビションジャパン)
 期間:2019年10月 対象:教務部園芸デザイン科主任1名
 内容:業界展示会にて最新動向と情報交換を実施

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名「新潟県専修学校各種学校協会 教職員研修」(連携企業等:新潟県専修学校各種学校協会)
 期間:2019年11月 対象:教務部長1名、園芸デザイン科教員1名
 内容:キャリア指導に関する講演会

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

学生、保護者、教職員等、直接的な学校関係者のみならず、地域住民、就職先企業など、当校を取り巻く関係者にわかりやすく、明確な学校評価を実施する。特に、当校の教育分野は地域との連携が重要な内容である。
 地域との良好なつながりの実現、連携先企業に対して誠実な対応が必要であると考え。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の理念・目的・育成人材像は定められているか ・学校の理念、目的のもとに特色ある職業教育が行われているか ・社会経済のニーズをふまえた学校の将来構想を抱いているか ・学校の理念・目的・育成人材像は、特色・将来構想などが学生・保護者に周知されているか
(2) 学校運営	<ul style="list-style-type: none"> ・目的等に沿った運営方針が策定されているか ・運営方針に沿った事業計画が策定されているか ・教務・財務等の組織整備など意志決定システムは整備されているか ・人事、給与に関する規定等は整備されているか ・業界や地域社会に等に対するコンプライアンス体制が整備されているか ・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか

<p>(3) 教育活動</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教育理念などに沿った教育課程の編成・実施方策などが策定されているか ・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか ・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか ・関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成、見直し等が実施されているか ・職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか ・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか ・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか ・人材育成目標の達成に向け授業を行うことが出来る要件を備えた教員を確保しているか ・関連分野における業界等との連携において優れた教員を確保するなどマネジメントが行われているか ・関連分野における先端的な知識・技能等を習得するための研修や教員の指導力の育成など資質向上のための取組が行われているか ・職員の能力開発のための研修などが行われているか
<p>(4) 学修成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・就職率の向上が図られているか ・資格取得率の向上が図られているか ・退学率の低減が図られているか ・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか
<p>(5) 学生支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・進路・就職に関する支援体制は整備されているか ・学生相談に関する体制は整備されているか ・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか ・学生の健康管理を担う組織体制はあるか ・課外活動に対する支援体制は整備されているか ・学生の生活環境への支援は行われているか ・保護者と適切に連携しているか ・卒業生への支援体制はあるか ・高校・高等専修学校との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか

(6)教育環境	<ul style="list-style-type: none"> ・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか ・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか ・防災に対する体制は整備されているか
(7)学生の受入れ募集	<ul style="list-style-type: none"> ・高等学校等接続する機関に対する情報提供の取り組みが行われているか ・学生募集活動は適正に行われているか ・学生募集活動において、資格取得・就職状況等の情報は正確に伝えられているか ・学生納付金は妥当なものとなっているか
(8)財務	<ul style="list-style-type: none"> ・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか ・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか ・財務について会計監査が適正に行われているか
(9)法令等の遵守	<ul style="list-style-type: none"> ・法令、専門学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか ・個人情報に対し、その保護のための対策がとられているか ・自己評価の実施と問題点の改善を行っているか
(10)社会貢献・地域貢献	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の教育資源や施設を利用した社会貢献・地域貢献を行っているか ・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか ・地域に対する公開講座・教育訓練の受託等を積極的に実施しているか
(11)国際交流	—

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

- ① 委員意見)同科がコース別になってもフラワー、ガーデン両方を学ぶ仕組みは継続してほしい。
- ① 当校対応)業界からもそれが求められていることは十分認識している。
- ② 委員意見)学園祭等により近隣住民との交流を積極的に行っている点は評価したい。
- ② 当校対応)校訓での「調和」の下、地域の園芸イベントには今後も積極的に参加したい。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成31年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
富樫 純一	長潟新栄自治会 会長	平成30年11月1日～ 令和2年10月31日(2年)	近隣住民
後藤 孝之	株式会社日本フードリンク 代表取締役	平成29年11月1日～ 令和元年10月31日(2年)	関連企業
渡辺 弘友	新潟県立植物園 副参事	平成29年11月1日～ 令和元年10月31日(2年)	関連団体
片桐 竜司	株式会社峰村商店 社員	平成29年11月1日～ 令和元年10月31日(2年)	卒業生
菅原 夏美	牛歩園緑化株式会社 社員	平成29年11月1日～ 令和元年10月31日(2年)	卒業生
西村 賢太	株式会社新潟ケンベイ 社員	平成29年11月1日～ 令和元年10月31日(2年)	卒業生
川嶋 悦子	会社員	平成30年11月1日～ 令和元年10月31日(1年)	在校生保護者

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

毎月12月にホームページにて公表

URL:<http://abio.jp/assessment/>

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

- (1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針
- ・パンフレットなどの印刷物、ホームページなど学校の紹介の中で現在の状況を伝えること
 - ・具体性を持った情報提供に努めること

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の理念・目的・育成人材像は定められているか ・学校の理念、目的のもとに特色ある職業教育が行われているか ・社会経済のニーズをふまえた学校の将来構想を抱いているか ・学校の理念・目的・育成人材像は・特色・将来構想などが学生・保護者に周知されているか ・目的等に沿った運営方針が策定されているか ・運営方針に沿った事業計画が策定されているか
(2)各学科等の教育	<ul style="list-style-type: none"> ・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか ・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか ・人材育成目標の達成に向け授業を行うことが出来る要件を備えた教員を確保しているか
(3)教職員	<ul style="list-style-type: none"> ・人事、給与に関する規定等は整備されているか ・業界や地域社会に等に対するコンプライアンス体制が整備されているか ・関連分野における業界等との連携において優れた教員を確保するなどマネジメントが行われているか ・関連分野における先端的な知識・技能等を習得するための研修や教員の指導力の育成など資質向上のための取組が行われているか ・職員の能力開発のための研修などが行われているか ・教務・財務等の組織整備など意志決定システムは整備されているか
(4)キャリア教育・実践的職業教育	<ul style="list-style-type: none"> ・教育理念などに沿った教育課程の編成・実施方策などが策定されているか ・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか ・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか ・関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成、見直し等が実施されているか ・職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか
(5)様々な教育活動・教育環境	<ul style="list-style-type: none"> ・就職率の向上が図られているか ・資格取得率の向上が図られているか ・退学率の低減が図られているか ・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか ・進路・就職に関する支援体制は整備されているか ・卒業生への支援体制はあるか ・高校・高等専修学校との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか ・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか ・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか ・防災に対する体制は整備されているか
(6)学生の生活支援	<ul style="list-style-type: none"> ・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか ・学生相談に関する体制は整備されているか ・学生の健康管理を担う組織体制はあるか ・課外活動に対する支援体制は整備されているか ・学生の生活環境への支援は行われているか ・保護者と適切に連携しているか

(7) 学生納付金・修学支援	<ul style="list-style-type: none"> ・高等学校等接続する機関に対する情報提供の取り組みが行われているか ・学生募集活動は適正に行われているか ・学生募集活動において、資格取得・就職状況等の情報は正確に伝えられているか ・学生納付金は妥当なものとなっているか
(8) 学校の財務	<ul style="list-style-type: none"> ・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか ・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか ・財務について会計監査が適正に行われているか
(9) 学校評価	<ul style="list-style-type: none"> ・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか ・法令、専門学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか ・個人情報に対し、その保護のための対策がとられているか ・自己評価の実施と問題点の改善を行っているか
(10) 国際連携の状況	—
(11) その他	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の教育資源や施設を利用した社会貢献・地域貢献を行っているか ・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか ・地域に対する公開講座・教育訓練の受託等を積極的に実施しているか

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

ホームページにて公表

URL:<http://abio.jp/assessment/>

授業科目等の概要

(農業専門課程 園芸デザイン科) 平成30年度														
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			樹木学 (集中)	樹木の種について知見を深め、樹木の存在意義や重要性を認識する。授業前半は講義、後半は結果、結実している実物から特徴や区別点を学ぶ。	1前	32	○				○		○	
○			植物学概論	農業を学ぶ上で必要な植物に関する基本的生理、作物の特性を学ぶ。栽培作物を植物の視点から考える基礎的知識を身につける。	1前	32	○				○		○	
○			販売サービス	小売業における販売技術や品ぞろえ計画、サービス業における接客方法を学ぶことで、商品やサービス提供の基礎知識と、その実践力を身につける。	1後	32	○				○		○	
○			植物病理学	植物の病気に関するきほんてきな知識を身につける。病気を理解することで適正な農薬の使用、対処法を身につける。	1後	32	○				○		○	
○			園芸福祉概論	園芸が人間にもたらす効用を理解し、それを引き出す造園のあり方を考え、初級園芸福祉士として活躍できる知識と技術を修得する。	1前	32	○				○		○	
○			都市計画	公園設置などの緑化事業にとって非常に重要な都市計画の必要知識を修得する。	2前	32	○				○		○	
○			景観論	景観という現象を理解し、景観を考えるうえでの着眼点や問題意識を養う。こうした景観に関わる知見を基礎として、景観計画・設計の基礎的な手法・プロセスを理解・習得する。	2後	32	○				○		○	
○			フラワーカラー	フラワーアレンジに必要な色使いや色の組み合わせなどの色彩知識を学ぶ。	1後	32	○				○		○	
○			フラワービジネス論	主に生花店業務を中心にフラワービジネスに必要な基礎知識とその活用法を習得し、就業後に活かせる店舗経営法を習得する	1前	48	○				○	○	○	○
○			ガーデンデザイン論Ⅰ	庭園の歴史や種類、材料や道具の名前など、庭をデザインし施工するにあたり必要な基礎的知識を習得する。	1前	32	○				○		○	
	○		環境保全論	環境破壊がどのように影響を及ぼし問題が発生しているか、またその対応策について植物がどう関係しているかを理解し、園芸に関わる者として自分なりの意見を持ち行動できるようになることを目標とする	1後	32	○				○		○	
	○		環境と法規	都市計画法、自然環境保全法など環境保全に関する法律知識を学ぶ。	2前	32	○				○		○	
	○		施工管理学	造園専門以外の設備をまとめ、分野別に説明し、専門用語の解説から工事の方法まで理解を深め、最終的には、2級造園施工管理技師検定合格を目標とする。	2後	32	○				○		○	

○	環境デザイン実習Ⅱ	環境デザイン実習で得た技術を使い、個人庭園や学校花壇の設計をする。	2通	96				○	○	○	○	○	○
○	生態系調査実習	生態系の調査を行ううえで、必要な知識、技術、留意点を実習を通じて身につける。生態系の理解のためには実際に外にできることが大切である。	2通	64				○	○	○	○	○	○
○	フラワーコーディネート実習Ⅱ	フラワーコーディネートにとって必要な知識、技術の修得を実習形式で身につける（インターンシップ実習等も行う）。	2通	96				○	○	○		○	○
○	プロジェクト実習	フラワー、ガーデン専攻分野の作品制作、施工を実施する。	2通	96				○	○	○	○	○	○
○	就職実務	就職活動の一連の流れを理解する。農業分野やその他の分野のさまざまな仕事をイメージし、自分に適した職種・業種を見つけ出すことを目標とする。	1通 2通	64		○		○		○			
○	一般常識	漢字、計算などの基礎学力の他、社会常識として認識されている政治・経済・地理などの知識を学ぶ。	1後	16		○		○		○			
○	○A実習	エクセルの基本操作の習得と応用を実習を通じて学ぶ。また、農業経営に必要なソフトの活用を学び○Aの基本的な理解に努める。	1通	64				○	○		○		
○	地域活動	地域で行われるイベント活動のボランティアを通じ、社会との関わり、行事運営を体得する。	1通 2通	64				○		○	○		○
合計				38科目	1792単位時間(単位)								

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
①出席率 学科科目85%以上、実習・実験科目90%以上		1学年の学期区分	2期
②各科目の成績評価がC以上		1学期の授業期間	16週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。